



生物多様性保全上で重要な場所での特定外来生物等の防除 長沼町舞鶴遊水地でのアライグマ防除の現状と課題



【概要】長沼町の舞鶴遊水地では、利活用の一環としてタンチョウの生息環境整備が進められており、令和2（2020）年には繁殖が確認されている。一方で、アライグマの生息も確認されており、タンチョウの繁殖への影響が危惧される。タンチョウも住めるまちづくり検討協議会によりアライグマの捕獲が行われているが、生息数は横ばいまたは増加傾向で推移しており、より効率的で効果的な捕獲が求められている。また、舞鶴遊水地周辺では農業被害防止等を目的にアライグマの捕獲が長沼町を中心に実施されており、舞鶴遊水地でのアライグマ防除との連携が期待される。さらには、舞鶴遊水地以外の千歳川遊水地群でも、タンチョウの飛来が確認されており、地方自治体の枠組みを越え、広域でアライグマ防除を推進していくための仕組みも必要である。

舞鶴遊水地

- ・平成24（2012）年にタンチョウが飛来し、令和2（2020）年からは毎年繁殖が確認されている。
- ・タンチョウも住めるまちづくり検討協議会により、年間4～8頭のアライグマが捕獲されている。
- ・近年は北海道大学との連携により、箱わなより捕獲作業の負担が少ない巣箱型わなが導入されている。
- ・自動撮影調査の結果からは、アライグマの生息状況は横ばいまたは増加傾向で推移していると考えられる。



※写真提供
北海道大学池田透研究室

図 巣箱型わな

図 舞鶴遊水地でのわなと自動撮影カメラ設置位置

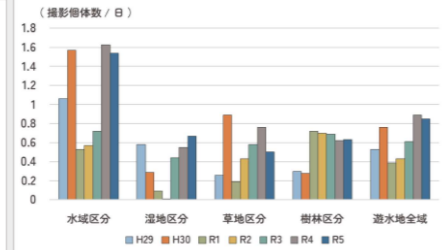
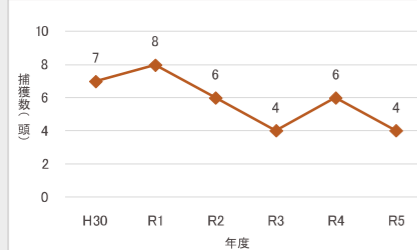


図 舞鶴遊水地のアライグマ捕獲数の推移

図 舞鶴遊水地の自動撮影調査によるアライグマ撮影頻度の推移

※データ引用：タンチョウも住めるまちづくり検討協議会の取組
https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/kasen_keikaku/kluhh4000001qwn.html#s3

舞鶴遊水地周辺（長沼町）

- ・長沼町では、農業被害防止等を目的にアライグマの捕獲が実施されており、捕獲数は高止まりの傾向にある。
- ・農業被害防止のための捕獲は、地域（行政区）が主体となり農家によって実施されている。
- ・舞鶴遊水地周辺も含め、馬追丘陵に面した長沼町の東側の地域で捕獲数が多い傾向にある。
- ・舞鶴遊水地の北側に、捕獲を行っている農家が点在している。

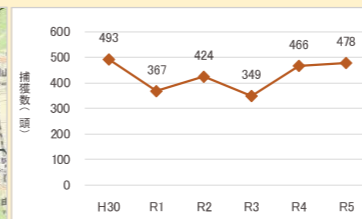
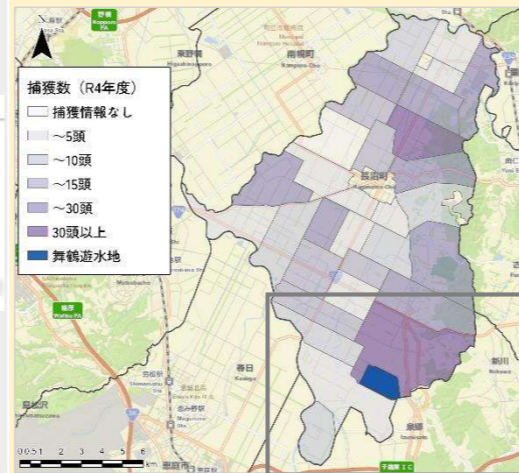
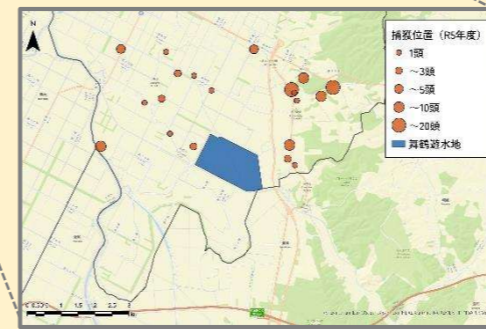


図 長沼町のアライグマ捕獲数の推移

図 長沼町の行政区ごとのアライグマ捕獲数

図 舞鶴遊水地周辺のアライグマ捕獲位置と捕獲数



※データ提供：長沼町

千歳川遊水地群

- ・舞鶴遊水地以外の千歳川遊水地群でもタンチョウ飛来の確認が増えており、令和5年度は6遊水地全てにタンチョウが飛来している。
- ・千歳川遊水地群とその周辺は、いずれもアライグマの生息密度が高い地域であり、メスの成獣も捕獲されている。

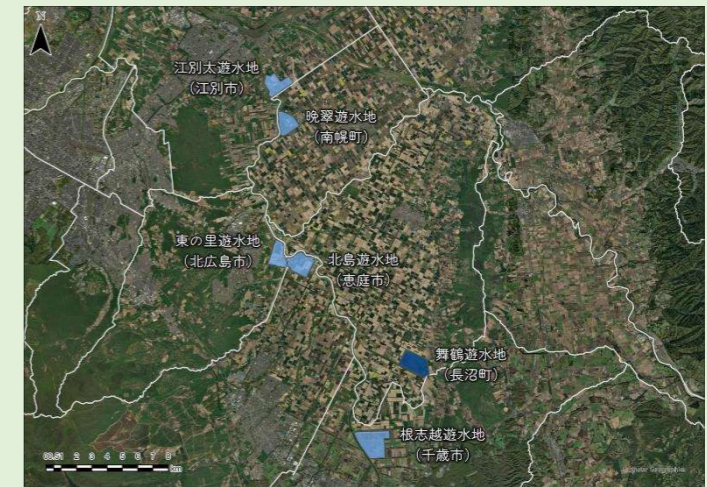


図 千歳川遊水地群

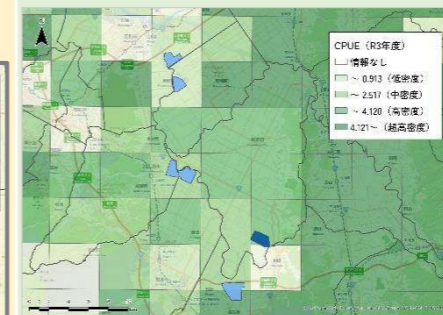


図 千歳川遊水地群周辺のアライグマのCPUE

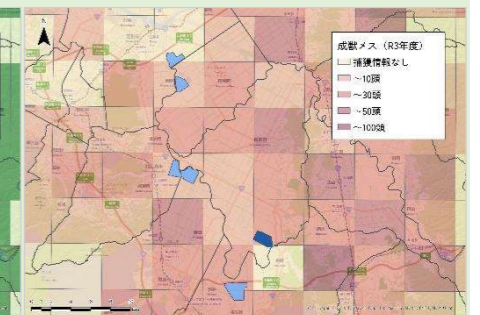


図 千歳川遊水地群周辺のアライグマの成獣メス捕獲数

※データ提供：北海道庁

【有識者からの意見】

- ・個体数を減らすには春（3～6月）の捕獲が効果的であり、メスがいる地域で優先的に捕獲するのがよい。
- ・広域スケールでは遊水地の東側に位置する馬追丘陵が、狭域スケールでは農家の牛舎や納屋、空き家などがアライグマの供給源（ソース）となっている。
- ・侵入経路は、防風林や水路が利用されており、これらの場所を中心に、わなを500m程度の間隔で設置するとよい。

より効率的で効果的な捕獲の推進

- ・捕獲プログラム等に準じた捕獲時期や場所の設定
- ・アライグマの行動パターンの詳細把握

農業被害防止を目的とした捕獲との連携

- ・捕獲を実施する農家とのデータ共有と成果の還元
- ⇒舞鶴遊水地の南側エリア（千歳市管内）での捕獲強化

地方自治体間での意見交換の場の創設

- ・アライグマ捕獲の体制や予算、手法等の情報共有
- ・広域協議会、石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会、さっぽろ連携中枢都市圏等の活用